

ICPO台湾参加なら国際犯罪抑止に貢献

第91回国際刑事警察機構(ICPO、インターポール)の年次総会が11月28日～1日にかけて、オーストリアの首都・ウィーンで開催された。残念でならないのは、今回も台湾のオブザーバーでの参加がかなわなかったことだ。複数国が、台湾の参加を支持する姿勢を示したにもかかわらずだ。

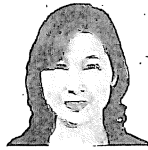
ICPOは、各国の刑事警察機関による連携と情報交換を通して、国際テロ組織の活動など凶悪な国際犯罪の抑止・排除を目指す国際機関である。世界各国がICPOに参加することは、こうした犯罪を抑止・排除するうえで極めて有効である。

国際通貨基金(IMF)によれば、2022年における台湾の名目国内総生産(GDP)は、世界

台北駐日経済文化代表処横浜分処

張淑玲処長

特別寄稿



21位にランクされる。仕事環境や家計などの指標を数値化して格付けした住みやすい国・地域のランキングで、5位に入ったという調査結果もある。世界の人身売買について米国務省が発表した23年度の報告書では、14年連続で最高ランクに当たる「第1階層」に分類された。

国際犯罪のリスクはますます増大しており、詐欺などをめぐる新たな形態も出てきている。台湾が今後も、引き続き良好な治安を維持していくには、ICPOに参加し、各国の刑事警察機関と手を携えて、国際犯罪を取り締まる必要がある。

台湾は、ICPOの「E-24/7グローバル警察情報通信システム」と、その下にある「パスポート

ト盗難・紛失管理(SLTD)データベース」が、リアルタイムで提供している重要な犯罪情報にアクセスできない。

このため、台湾が行うセキュリティチェックはもとより、国際犯罪の取り締まり能力に著しい影響を及ぼしている。さらに重要なのは、こうした体制が情報共有の穴となり、全人類の安全と平和にも、潜在的な脅威をもたらしていることだ。

犯罪の撲滅は、世界共通の普遍的な価値であり、台湾は国際犯罪の抑止・排除に向け、ICPOへの参加を通じ、日本をはじめ世界各国と連携していきたいと心から願っている。参加が実現した暁には必ずや、貢献できると信じている。